

義也、明、千尋、それぞれ周辺でのできごと

	義也(末尾の数値は装丁を手がけた数)	明	千尋
1960	「久保栄研究」2号:「私は赤ちゃん」、松田道雄(新):「アユの話」宮地伝三郎(新):「おわれゆく抗夫たち」上野英信(新):「久保栄研究」3号:「1960年5月19日」日高六郎編(新)	斎藤真生子と結婚	永木能子と結婚
1961	「久保栄研究」4号:「版画」小野忠重:「ナチスの時代」マウ、クラウド共著、内山敏訳(新):「ゴリラとピグミーの森」伊谷純一郎(新):「久保栄研究」5号:「日本の思想」丸山真男(新):「目の見えぬ子ら—点字の作文をそだてる」赤座憲久		
1962	「久保栄研究」6号:「アメリカ感情旅行」安岡章太郎(新):「京都」林屋辰三郎(新):		ふぐ毒、テトロとキシンの構造決定開始
1963	「日本の歴史」井上清(新):「沖縄」比嘉春潮、霜多正次、新里恵二(新)	田村明「環境開発センター」銀座事務所ではじめる、早稲田の吉阪研究室の一群がアルバイトで図面作成 浅田孝「これからは大学研究室の素人でなく実務で役立つプロフェッショナルが必要だ」 田村明ソ連・東欧・西欧53日間の都市・建築を見る旅に参加 田村明夫妻横浜の公団住宅に住み始める 横浜市長選挙前に「市民派の左翼の国会議員」の飛鳥田に鳴海がはじめて出会う 4月飛鳥田一雄横浜市長に初当選「誰でも住みたくなる都市づくり」直接民主主義を提唱、鳴海正泰が参加し浅田孝を飛鳥田に紹介	
1964	「恐るべき公害」庄司光、宮本憲一(新):「世界の都市をめぐって」柴田徳衛(新):「日本の酒」坂口謹一郎(新)	3月市議会が一人市民集会の予算案否決 3月第一回市民生活白書発表 10月環境開発センター『六大事業』を市に提案	テトロとキシンの構造決定、国際天然物会議
1965	「南ベトナム戦争従軍記」岡村昭彦(新):「久保栄研究」8号 1	2月六大事業を市会全員協議会で説明:田村明『都市は市民のためにある』毎日グラフ 1965年4月1日	アメリカ、イリノイ大留学 :X線結晶解析法とプログラミング関連
1966	「栽培植物と農耕の起源」中尾佐助:武蔵美非常勤講師、講義は編集計画研究	国鉄『新貨物線計画』を発表	
1967	「不精の悪魔」安岡章太郎:「インド・パキスタン現代史」獵山義郎(新): 大島久美子と結婚 :「久保栄研究」9号:「地の底の笑い話」上野英信(新):「日本に象がいた頃」亀井節夫(新):「維新前夜の文学」杉浦明平(新):『世界』編集部へ異動 6	港北ニュータウン開発促進協議会発会:新貨物線反対同盟連絡協議会結成 新田間川開発計画おさるが頓挫される:三菱重工業移転交渉開始で基本的合意 秋、鳴海正泰が田村明に横浜市入庁の意向打診、田村明夫人眞生子『鳴海さんが我が家に来られて横浜市に来ないかと主人を説得していた。』	帰国
1968	「バタゴニア探検記」高木正孝(新):「戦場の村」本多勝一(装丁):『文学』編集長 4	4月田村明横浜市入庁『企画調整室』新設 4月建設省と高速道路地下化交渉開始 4月多摩田園都市開発につき東急と覚書締結 8月「横浜市宅地開発指導要綱」制定 9月1億ドイツマルク(90億円)外貨地方債横浜市発行(横浜港南部海面埋立=金沢地先埋立)	
1969	「久保栄研究」10号 8	3月首都高速の半地下化決定 9月1億ドイツマルク(90億円)外貨地方債横浜市発行(横浜港南部海面埋立)	
1970	「君知るや銘酒泡盛」坂口謹一郎(世界):『大阪城』岡本良一(新):『漢字』白川静(新):『世界』編集長 6	新都市計画法による線引き決定	
1971	特集「復帰を問う」(世界):「奈良」直木孝二郎(新):蠹魚庵漫草:比嘉春潮(勁草書房):「おんどのりのねがい」油野誠一 13	8月1億ドイツマルク(102億円)外貨地方債横浜市発行(横浜港南部海面埋立) 5月アーバンデザインチームの発足	
1972		11月『山手地区景観風致保全要綱』制定 12月日照等指導要綱の制定 12月25日用途別容積制(住居容積規制)を含む横浜市建築基準条例の一部を改正する条例の公布	
1973		21 「用途別容積制」が昭和48年2月1日より施行 港北ニュータウン基本計画の決定	
1974		12	
1975		10 1975年を境に地方債を含む政府債務の体GDP比がおおきく変化している、それまでは起債に頼らず国も地方も財政運営が行われてきた	メバロチン前駆物質ML236Bの構造決定と特許取得
1976		6 三菱重工業横浜造船所移転協定書に調印	
1977		14 「都市を計画する」(岩波書店)出版	
1978		19	
1979		25	
1980		47	